

「げっ歯類の貯食行動」



▲只見に生息するアカネズミ



▲只見に生息するニホンリス

只見の森にはニホンリス、アカネズミ、ヒメネズミなどが生息しています。これらのげっ歯類は餌が不足する冬季の食料を確保するために、秋に落下したコナラやミズナラ、ブナなどの堅果（どんぐり）を地中などに隠します。この行動は貯食行動（キャッシング）と呼ばれます。樹木から直接地面に落ちただけの堅果は、捕食や病気による死亡率が高く、また、母樹によって光が遮られるため発芽しても成長が困難です。貯食された堅果の多くは回収・捕食されますが、一部は回収されず、条件の良い場所に運ばれたものは発芽・成長します。また、げっ歯類は堅果を地下5cmくらいの地中に埋めることが多く、これは結果的に堅果を乾燥や捕食者から守り実生の定着を助けるものといわれています。さらに、樹木が分布域を拡大するためには、母樹からより遠い場所に堅果を運搬してもらう必要があります。このように堅果を貯食するげっ歯類などの動物は、捕食者であると同時に種子散布者としての役割も果たしています。

今年の只見地域は、ブナやコナラ、クリなどブナ科樹木の堅果が豊作年と見られます。この季節の森の中では、ノネズミなどのげっ歯類が、堅果をせっせと集め、運び、貯蔵する姿があり、こうした行動が只見の森の形成に大きく貢献しています。

自然観察会

「ただみ観察の森」観察会

第3弾「黒沢のコナラあがりこ林に行こう！」

と き：11月17日（土）午前9時30分～正午まで

集 合：ただみ・ブナと川のミュージアム（午前9時集合）

観察地：「ただみ観察の森」黒沢のコナラあがりこ林

※イベントの詳細情報はブナセンターホームページか「おしらせばん」をご覧ください。

詳しくは、
只見町ブナセンター
までお問い合わせ
ください